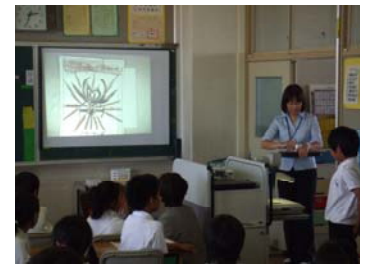


1.平成23年度輪之内町情報教育推進の概要

□情報教育の重点と力点

《重点》

教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。



《力点》

〈情報活用能力〉

情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、情報活用能力段階表に基づいた系統的な指導に努める。

- ・ 効果的な ICT 機器の活用
- ・ デジタル教科書、デジタルコンテンツの有効活用
- ・ 実践交流の推進
- ・ 教職員のスキルを高める研修

〈情報モラル〉

情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行う。

- ・ 情報モラル指導表に基づいた、系統的な指導
- ・ 保護者への情報モラルの啓発

□IT 整備状況について

- 各小中学校に整備された機器は、すべて町内教育用イントラネットを通じて、インターネットへ接続可能(光100M)
- フィルタリングがかけてある。教室で見たいHPにフィルタリングがかかる場合は、事前に情報研修室に依頼し、外すことができる。(職員室用と教室用・パソコン室用ではフィルタリングのかけ方が違うので注意)
- 各小中学校の全普通教室に液晶プロジェクター、ノート型パソコン、教材提示装置、デジカメ、スクリーンを常時配置している。
- 各学校に電子黒板 1 台(パソコン・教材提示装置・ブルーレイデッキ含む)整備している。



○各小中学校にパソコン室(パソコン 40 台、福東小学校は 38 台)、第 2 パソコン室(中学校 40 台)や福東、仁木小学校の学習室・オープンスペースにもパソコンを設置している。

2.小学校低学年からの情報機器の活用

ICTの活用は、機器の持つ特性から「大きく写すことができ見やすい」「リアリティがある」「子どもの視線が集中する」「興味関心を引く」といった長所があり、教師が情報機器を意図的に活用することにより、「分かる授業」を進め、「確かな学力」をつけることができます。全国的にも、子どもたちが「分かる」喜びを感じ、「できた」という達成感を得る授業を実現するために、情報機器の活用をした授業が注目を集めています。

パソコンだけではなく、教材提示装置で拡大して映すだけでも効果があります。特に低学年のICTの活用は、集中力を持続させる重要な手段です。また情報機器のスキルを児童生徒に身に付けることも大切です。

本町では、ポータルサイトに多くの教材ソフトを揃えて学習支援をしています。小学校では、今年度から教科書が改訂されるのにともない、準拠したデジタル教科書を導入しました。(国語・算数は全学年、社会・理科は3～6年) その他にも、キーボー島(キー操作のスキルアップを目指す)に取り組んでいます。また、小学校外国語活動の教材ソフトも導入しています。



< 英語教材の一部 >

< ポータルサイトのメニュー画面 : インターネットをクリックすると立ち上がります >



< 小学校学習支援ソフト: ジャストスマイル > < 中学校学習支援ソフト: ジャストジャンプ >

3.情報モラル教育の推進

情報通信ネットワークの加速度的な普及により、その光の部分で快適な生活といった恩恵を受けている反面、その陰の部分としての問題や事件が起きています。このような便利さと危険性が共存している情報通信ネットワーク社会の中で生活する子どもたちに、正しい判断や適切な行動をするものになる考え方や態度(情報モラル)を身につけさせていくことが必要です。



新学習指導要領では、情報モラル教育の推進を強く打ち出しています。町としては、ここ数年、情報モラルを身につけ、安心して安全な生活を送ることができる子どもたちの育成を図るために、情報モラル教育に積極的に取り組んでいます。

4.その他

- ・教職員1人1台のパソコン貸与します。
- ・職員掲示板、行事予定表。、各学校HP、Xoopsを活用します。
- ・授業や諸活動でのICT機器を活用します。
- ・メールによる緊急連絡(キュート連絡網)を活用します。